就職に強い！ 年間相談10000件 頼れる「就職活動応援団」

本学の就職課スタッフは、頼れる「就職活動応援団」だ。「学生とともに」をモットーに年間10000件の相談に応じているほか、卒業生や就職活動を終えた4年次生も含めた「オール専修」体制で、バックアップしている。このページでは、就職支援プログラムの一部を紹介しよう。

【大就職相談会】
厳しい採用戦線を勝ち抜いた４年次生が、「就活必勝法」を伝授してくれる。実際に使ったエントリーシートや、就活ノートなどを参考に、自分らしい活動方法を生み出してみよう

【ＳＲＳ】
〝就活〟を体験した学生自らが立ち上げた就職応援団。身近に話すことで、不安を解消してくれる

【業界・企業研究講座】
就職したい企業ランキング上位に登場する大手企業が生田キャンパスで、業界動向や採用したい人材像などを説明してくれる

【営業職入門】
営業職で活躍している卒業生が、基礎的な内容からビジネスの本質までを説明。「営業」について正しく理解しよう

【総合就職合宿研修会】
大手企業採用担当者が行う模擬面接が学生に大好評。「就職力」が飛躍的に伸びる１泊２日の強化合宿は20年以上の歴史をもつ。参加学生の就職率は97％だ（2007年度）

【学内ＯＢ・ＯＧ訪問】
神田キャンパス内で、ＯＢ・ＯＧ訪問ができるお得な機会。「熱い思いを後輩に伝えたい！」と毎年多くの卒業生が協力してくれる

こんにちは！ 就職課です ❹

採用環境は一変。採用担当者の心に響くエントリーシート・面接とは何か！

厳しい採用環境で企業は筆記試験・エントリーシートの合格ラインをアップさせてくる。今月は、採用選考で必ず問われる「学生時代に力をいれたこと」、そして「自己ＰＲ」のポイントを探る。

●ポイント1　企業の狙いを考えて

「達成感を得た経験は？」「他人を巻き込んで何かを成し遂げた経験は？」……企業はさまざまな質問を投げかけてくる。しかし、単に「経験・体験」だけを知りたいのではない。それを通して「物事に取り組む姿勢・価値観」を知りたいのである。

「どんな思いで取り組み」、「どのような行動をしたのか」、そして「どれくらい成長したか」を深く掘り下げることが大切なのだ。

●ポイント2　具体的に伝える

「～は大変だった」「～をがんばりました」と結果だけを羅列する学生が多い。読み手、聞き手側からすると「それでどうしたの？」「何が言いたいの？」と思う。

結果に至る過程を具体的に伝えることが大切だ。その方法として「5Ｗ1Ｈ」を考える。とりわけ、ＷＨＹ（なぜ）ＨＯＷ（どのようにして）を意識することだ。固有名詞や数字、そして思いや理由などを交えると具体的なイメージを与えられる。結論は最初に、内容は簡潔にまとめることも心掛けよう。

●ポイント3　求める人材像を把握

多くの貴重な経験・体験をしても、「企業が求める人材」を把握していないと自分の強みを効果的にアピールすることはできない。企業が「果敢に挑戦できる人物」を求めているにもかかわらず「コツコツと慎重に取り組む姿勢」をアピールしても的外れ。求める人材像を把握した上で、企業に合った「自分」を語ることで「入社後の活躍の可能性」をイメージさせることができる。

そして、何よりも「自信」を持って伝えよう！ それが採用担当者の心を動かす。

◇

★エントリーシートや面接は他人が評価するもの。「就職課」という第三者を有効活用しよう！

実社会で役立つ「ＨＥＩＢ」講座

女子学生をサポート

▲　石原奈津子さんの講演を聞く学生たち

第35回講座 食の大切さ訴える

「ＨＥＩＢ（ヒーブ）」講座（林沙央梨・学生代表＝経営3、会員75人）の後期最後の第35回講座が12月9日、生田キャンパスで学生ら24人が参加して開催された。日本食育コミュニケーション協会代表取締役の石原奈津子さんが講演。「食」の大切さを1時間半にわたって語った。

石原さんは、さまざまな分野を通じて食の楽しさや大切さを伝える食育の専門家「食育コミュニケーター」を育成する協会を運営しているほか、子どもと食をテーマにした商品開発・販売、さまざまなイベントや講座の企画・講義など、幅広い事業展開をする会社も経営。「食育」ビジネスの場で活躍する女性起業家である。

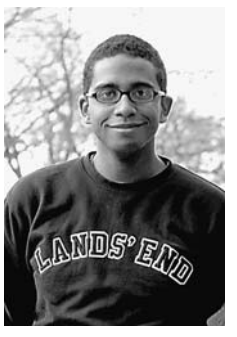
講演では、「妊娠時に、母親が口にするものが子供に影響を及ぼすことから食について真剣に考えるようになった」と活動のきっかけを語り、食とコミュニケーションを通じて、「人間としてどのように生きていくかを考えてほしい」と訴えた。

※ＨＥＩＢ講座＝HEIBはHome Economists In Businessの略称で、消費者と企業のパイプ役。この講座では、各界で活躍する著名人を招いてマーケティング、経済、消費・流通、環境などに関する多彩な講義を展開するほか工場見学・企業訪問といったフィールドワークも実施する。さらに暮らしの法律、作文、パソコン、ビジネスマナーなどユニークな講座も多数開講し、実社会で役立つ実務能力、女性として必要な資質を磨くことも目的としている。女子学生限定の講座。

中米パナマから来日　エドウィン・アンデルソンさん

日本人の優しさに感動

冬期日本語・日本事情プログラム参加



国際交流協定校など海外の学生を対象にした冬期日本語・日本事情プログラム（期間7週間）が1月9日から始まった。9カ国・地域14大学から来日した30人の短期留学生が、日本語や日本の文化を学んでいる。

今回のプログラム受講生のひとり、中米パナマのパナマ工科大学生、エドウィン・アルレス・アンデルソンさんに聞いた。

◇

初めての来日です。ロックバンド「Xジャパン」やアニメが大好きで、日本の文化や歴史に興味を持っています。日本語の学習とともに日本を知るためのさまざまな体験をしたいと思っています。

日本の第一印象は、人々の優しさです。お店でもレストランでも、本当に親切な人たちばかり。もちろん専大生も、なにかと声をかけてくれるので寂しくありません。

パナマの大学ではシステム・エンジニアを目指す勉強していますが、将来は長期間の日本留学を希望しています。このプログラムで日本語をもっと上達させ、将来につなげたいと思っています。

※短期留学生の宿舎・国際研修館に常駐するＲＡ（レジデント・アシスタント）やキャンパスアシスタント、カンバセーション・パートナーらたくさんの専大生が彼らをサポートしている。

充実の留学制度

キャンパス内での交流も活発

本学は、国際交流協定校として世界15カ国・地域の20大学と協定を結び、活発な国際交流を展開しています。

夏と春の短期留学プログラム、中期・長期留学制度により、期間・留学先が多種多様な海外留学が可能。そのために必要な学習支援講座を豊富に取り揃えています。

またキャンパス内には、学部・大学院の留学生のほか、海外の協定校から日本語、日本文化・ビジネスを学びに来ている短期留学生もおり、日本に居ながら海外の学生と交流する機会があります。

●植林に励む子どもetc.

海外「NGO」参加学生の写真展

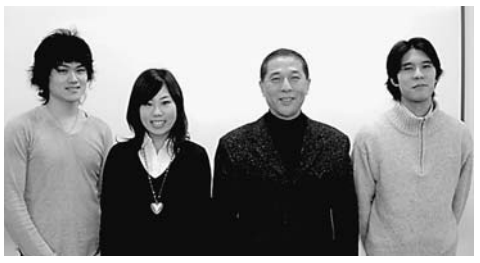
▲　力作をバックに…狐崎教授（右から２人目）と撮影した学生たち

アジア、アフリカ、中南米、欧州でのさまざまなNGO活動に参加した学生たちによる写真展が、生田キャンパスで開催された。

経済学部国際経済学科「NGO論」（狐崎知己教授）の受講学生14人が、昨夏撮影した写真20点を持ち寄り、1月14日から10日間にわたり披露した。

▽中国内モンゴル自治区で子どもたちが植林に汗を流す「力を合わせて」（平瀬浩一さん＝3年次、中野智宏さん＝2年次）▽ウガンダの女児と日本人が笑顔を交わす「LOVE&PEACE」（早坂香里さん＝3年次）▽女性たちが木の下でくつろぐ「ちょっとひと休み」（マーシャル諸島で新井美香さん＝同）など、活動の様子や出会った人々の何気ない一瞬をとらえた力作ぞろい。多くの学生たちが足を止めていた。

長期交換留学生（第1期）に3人



▶　大林センター長を囲んで左から橋本さん、岡さん、加藤さん

2009年度長期交換留学プログラム第1期の派遣留学生が決まり1月19日、生田キャンパスで大林守国際交流センター長から留学許可書が交付された。氏名と留学先は次のとおり。

●リュミエール・リヨン第2大学（フランス）
▽加藤隆行さん（法3）

●檀国大学（韓国）
▽橋本高位さん（経営3）▽岡美里さん（文2）